

<九州大学> 学術ポータル担当者研修 (2006.7.26-7.28) レポート

【受講者】

- 22 日高 環 九州大学附属図書館医学分館閲覧係
23 星子奈美 九州大学附属図書館コンテンツ整備課電子情報係
24 堀 優子 九州大学附属図書館図書館企画課企画係

(1) 発表資料の状況設定

今年度 CSI 事業で実現予定の「リポジトリと大学評価情報システム (研究者情報 DB) との連携」が実現したとの設定。教授会で議題「機関リポジトリと大学評価情報システムとの連携について」として、連携したことの説明とメリットの紹介、論文登録への協力依頼を行う。

(2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

<発表内容抄録>

教員は機関リポジトリ (QIR) についての基本的知識をもっている、と仮定。

まず、それぞれのシステムがまったく別個に存在していたために教員が抱いていたであろう不満を例示し、次に、相互連携の実現によりどういうメリットがあるか、またそれらの不満がどう解消されるかを説明した。最後に、詳細は配布資料を見ていただきたいということの説明し、論文搭載への協力を求めた。

<研修当日の講師からの助言>

○ロールプレイでの質疑応答

(*の部分が、ロールプレイから得られた、システム連携にあたっての仕様要件)

Q. IRで公開したいが、研究者情報DBには載せたくないのだが。

A. 研究者情報DBヘデータを送らないという選択肢もあるので、IRだけに搭載することも可能です。

*研究者情報DBへのデータ自動登録の際に、登録の可否を識別するフラグが必要。また、セルフアーカイブの際に、研究者自身がその可否を選択できるようにする必要がある。

Q. どのような種類の成果を登録しても、研究者情報DBのほうに自動登録してくれるのか。

A. 研究者情報DBに掲載すべき情報であれば、登録します。

*現段階の構想としては、IRのほうが収録対象が広い (たとえばファクトデータやプレプリントなど) ので、登録の可否の識別をどうやって行うか、様々なパターンを想定して対応する必要がある。

Q. すでに研究者情報DBに業績として入力しているものについて、IRにあとから搭載したら、図書館のほうで、研究者情報DBにリンクをはってくれるのか。

A. こちらでリンク形成します。

***IR から研究者情報 DB に自動登録するだけでなく、両システムに既登録のデータを簡単にリンクさせる仕組みが必要。**

○講師からの感想

字が大きいのがよい。詳細は別途資料を配布し、いいたいことのみを簡潔にまとめたところがよい。(眠くならなくて・・・)

<研修発表との改訂部分>

特に改訂は行っていない。

(3) リハプレゼンの概要(日時、場所、発表者、発表対象、参加人数 etc.)

日時：平成18年8月8日(火) 16:00-17:10

場所：九州大学中央図書館 館長室

発表者：星子

参加者：館長・事務部長・課長3名・IR関連部署の職員5名、研修受講者2名(発表者含め13名)

プレゼン後、プレゼンに対する意見交換及び QIR(九州大学学術情報リポジトリ)の今後の方向性について議論した。

(4) リハプレゼンへの反響(アンケートをとった場合の結果、感想の声等)

○リハーサルプレゼンに対する意見

- ・大学評価情報システムの「入力項目が多い」という表現について、どんな項目があるのか、どれくらいの項目数か、を具体的に出したほうがよい。こういう項目があつて、その中の「論文情報」の部分が QIR とつながるのですよ、という説明が必要。
- ・QIR から研究者情報DBに自動登録される点よりも、研究者情報DBから QIR にリンクがはられる点をもっと強調したほうがよい。
- ・「論文のデータ」という表現は、ファクトデータのことかと勘違いされるおそれあり。
- ・「著作権処理を図書館がやって」と言い切ってしまうといいのか。
→「論文を出したときに著作権も一緒に出版社に渡してしまって手許に残っていないという問題があると思います。著作権については、いろいろややこしい問題ですので、ノウハウを持っている図書館にご相談ください」という言い方をすればよいのではないかと。
- ・セルフアーカイブに積極的な教員もいるので、登録の流れを2通り書いておくほうがよい。

(5) その他(備考、今後の予定と希望 etc.)

○QIRの目指すもの、ポリシーについての意見交換より

- ・ゆくゆくは、自機関のみのアーカイブにとどまらず、出版社のE Jへのリンクも含めたヴァーチャルリポジトリのようなものにしたい。
- ・電子化されていない論文はどうするのか。
→手をつけないのが懸命
- ・人文社会系をターゲットにするのはおもしろいかもしれない。
QIRに登録→データを集めて紀要を発行 という流れも考えられる。

○その他

- ・QIRのロゴをちゃんと決めたほうがよい。
→教員配布用チラシで使っているQIRのロゴ(プレゼン資料で使ったもの)を元に、数パターン色の組み合わせを作ってみて決めよう、ということになり、10/4現在作成中。
- ・お問合せメールアドレスは、qir@lib. のほうがよい。(→早速変更された)